

ありまふじ里山だより

Vol.12

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol. 12は棚田の様子と里山で見つけた倒木被害の様子についてお届けします。



棚田の稲刈り！

里山ではわずかに紅葉が始まり、彩りも少しずつ変化してきました。いつのまにかセミの声が聞かれなくなり、夏のガヤガヤした感じとは違い、今は秋の虫が静かに鳴いています。

棚田では餅米の稲刈りが終わり、たわわに実った稲穂がはざ掛けされています。一段下のたんぼでは古代米の赤米や黒米がより色濃くなり、今週末には稲刈りを迎えます。

棚田のそばでは、ミツバアケビが実り、早いものは赤紫色に色づきだしています。アケビは熟すと果皮が割れることから、「開け実」が名前の由来ともいわれています。

倒木の被害

枯れたアカマツが根本から折れるように倒れています。つい先日までは、枯れているものの、まっすぐ立っていた木。強風により倒れたのでしょうか。さらに歩けば、別の場所でも同様の被害を発見。

里山には、枯れ木やかがり木など、危険な箇所がまだまだ見られます。安全に入れる里山をめざして、これからも里山整備を進めていきます。

